

新発田市 令和3年度 第6回定例記者会見

1 日 時 令和3年8月31日(火)午前11時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

【市長発表項目】

- 災害時における宿泊施設等の提供に関する協定の締結
- 新型コロナウイルスワクチンの接種状況
- パラスポーツ出前講座の実施
- 令和3年度敬老祝品の紹介
- 自殺対策推進月間～守りたいしばたのいのち～

【その他】

- 「ウォーキングチームチャレンジ」第2弾について
- ~~市民文化会館シネマ上映会~~ワンコインシネマ
(新型コロナウイルス感染拡大の影響により上映中止)

あいさつ

- 昨日から卓球世界選手権日本代表選考会が始まりました。小学校 6 年生の川上君が出場しています。階級やランクが関係ないのは卓球だけでしょうか。小学生の川上君が大学生と試合をしていました。卓球のすごさ、特質が見えた気がします。
- 宮崎強化本部長とのご縁で、新発田でこのような大会を開催できました。また、卓球の Tリーグは、西日本にクラブが多く、東日本、特に北陸にはチームがないので、作ってほしいとの要請を宮崎さんから受けました。バスケットボールやサッカーで世界一を狙うことは難しいことですが、卓球であれば、世界一も決して無理なものではない。クラブを作る意味があるのではないかというお話もありましたので、その依頼を受け、県内の経済界の友人に連絡しました。
- 宮崎さんからは、来年は Tリーグの試合を新発田でやりたいとの話がありました。新発田市が卓球の拠点になれば良いと思います。新発田の小学生が、団体、個人で日本一に輝いたということなので、その素地はあると思っています。
- 話は変わりますが、8 月 23 日に、大雨警報、洪水警報が発令され、マニュアルに沿って、避難所を開設しました。中々山で土砂崩れがあり、地域の皆さんの避難がありました。他は、あかたにの家避難所の利用以外は無く、大きな災害には至りませんでした。職員に対しては、「災害の時は大きく構えて小さく対応しなさい。大げさだと言われてもよい。」と指示しています。今回は大きく構えましたが大きな被害はなく、胸をなでおろしました。
- なお、テレビ報道で、「月岡温泉で冠水、避難所開設」というような情報が出されたそうです。間違いではないのですが、正式には「見城地区」であり、温泉地区の手前の場所でした。「月岡温泉冠水」と出てしまったので、心配された予約客から問い合わせやキャンセルの電話があったそうです。月岡温泉の入口だったのでそのような表現になったのかもしれませんが、気を付けなければならないと思います。
- 昨日、花角知事から要請があり、県の対策本部と 30 市町村長とのテレワークの会

合がありました。報道のとおり、時短要請が出されます。これについては、私たちからも、新潟、長岡、小千谷だけではなく、新発田市にも時短要請を出すように県に対してお願いを続けていました。ですから、時短には異論はありません。参加した市町村長も、オール新潟県でやっていこうとのことでした。

○しかし、県もにわか作りだったのではないかと思います。県の覚悟には賛成しますが、一方で、県の施設の休館などについては、制度設計がないまま見切り発車をしたのではないかと思います。公共施設の休館について市町村にもお願いをしていますが、「では、県が出資する「ふるさと村」をどうするのか。」という質問については答弁ができませんでした。私たちにすれば、例えば「道の駅」はどうするのかということになり、営業補償の問題が出てきます。県からは飲食店の時短要請の協力金のお話しかありません。

○県も急を要しているものだと思いますが、いずれにせよ、県の覚悟には賛成します。新発田市も本日午後 4 時から対策本部会議を開き、そこで決定いたしますが、私としては、当市も県の覚悟に沿った対応をしたいと考えています。

それでは、会見項目を説明いたします。

最初に、災害時における宿泊施設等の提供に関する協定の締結についてです。

○先週月曜日の未明、新発田市に土砂災害警戒情報が発令され、避難所を開設した事案がありました。以前は「災害は忘れたころにやってくる」と言われておりましたが、毎年のように大規模な自然災害が全国各地で発生しており、今は「災害は忘れる間もなくやってくる」と言っても過言ではなく、当市においても、いつ大規模な災害が発生してもおかしくありません。

○当市では、災害発生時に旅館・ホテルを避難所として活用し、避難者を分散させることにより、市内に 50 か所指定されている指定避難所の 3 つの密を回避することや、指定避難所での集団生活が困難な避難者が、一時的に旅館・ホテルで避難が行えるよう、8 月 26 日に協定を締結いたしました。

- 協定の締結は、月岡温泉旅館組合、新潟県旅館ホテル生活衛生同業組合新発田支部の2団体、施設総数は19施設です。協定内容は、災害時の一時的な避難所として、宿泊施設や入浴施設、食事及び食事場所の提供、また、市からの連絡や情報の窓口担当者を配置し、利用者の移送や名簿管理を行うこととしております。
- この協定締結により、避難所運営において、スペースが不足する場合の補完が可能なことから、安定した避難所運営を行い、避難者の不安を最小限にする避難生活につなげていきたいと考えています。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種状況についてです。

- 新潟県が県内全域を対象とした特別警報が発出される中、新発田市でも感染者数が高止まりしており大変心配をしています。
- 飲食店への時短要請を関係者の皆様をお願いすることはもとより、市民の皆様には、もう耳にタコが出来ているかもしれませんが、うがい、手洗い、ソーシャルディスタンスを保つなどの基本的な感染予防対策を続けていただくことと、そして、希望される市民の皆様に、着実にワクチン接種をしていただくことしか、今の私たちに出来ることはありません。
- 12歳から64歳までの対象者数5万5千5百40人のうち、8月30日現在の予約人数は、3万1千9百42人予約率は57.5%となっています。当市では既に対象者全員に接種券を発送し、年齢制限をすることなく予約受付をしています。
- 年代別の予約状況としては、10代は比較的高く約87%に達しています。これは、7月中に中学・高校を通じて、個別に保護者に対して接種希望の意向調査を行ったことで、集団心理の影響を受けにくくしたことが功を奏しているのではと考えています。既に、高校生の接種は8月初めから始めており、中学生も明日から順次、医療機関での接種を開始します。
- 感染拡大が懸念されている若者世代の20代、30代の予約率は10代に比較してまだまだ伸びしろがある様な状況ですが、学生に対しては敬和学園大学や職能短大と連携しある程度の予約率を得られています。

- しかし、就労している若者世代は、副反応による発熱によって、仕事に影響が出ることを懸念して接種を躊躇している方や、住民票を移動しないまま県外で暮らす学生なども多くいて、接種予約そのものが出来ていないとの話も聞いています。
- 最近では、首都圏で若者が接種予約に殺到している様子などを見ていると、接種したくないという風潮から、価値観が変わりつつあるようですので、今一度、産業界の皆様にも協力を呼び掛ける形で、若い世代の従業員の皆さんに、強制という事ではなく、今一度声がけをいただくよう担当には指示しています。
- また、妊婦さんの接種については、この 1 週間で確実に増えています。出産予定日との関係で 3 週間の間隔をとるためには、早急な接種が必要となる妊婦さんもいることから、個別医療機関とも連携して、接種を希望される妊婦さんには適切な接種が出来るよう対応しています。
- 先週末には、下越地域では初の県大規模接種会場・旧天王小学校での接種を無事に終わりました。2 回目の接種分は、まだ VRS 入力も済んではいませんが、8 月 30 日現在、64 歳以下のワクチン 1 回目接種者数は 2 万 2 千 8 百 51 人接種率 41.1%、2 回目の接種者数は 1 万 3 千 50 人接種率 23.5%となっています。11 月末までの接種完了だけでなく、どの世代においても 8 割以上の方に接種いただけるよう、今後も、気を引き締めて臨んでまいります。

次に、パラスポーツ出前講座の実施についてです。

- 今、東京パラリンピックが開催され、日本人選手が活躍しているところですが、当市でも、障がい者スポーツの普及促進への取組の一つとして、小・中学校の授業でパラスポーツの体験講座を実施します。
- 今年で 3 年目となりますが、今回は、小・中学校 8 校、約 400 名の子どもたちを対象とし、新潟医療福祉大学の佐近慎平准教授さきこんしんぺいにご協力をいただき、車椅子バスケットボールや、床のカーリングとも称される「ボッチャ」を子どもたちに体験してもらうことにしています。

○昨年までの実施において、子ども達から「障がいがあっても、道具を使ったりして工夫すれば、私たちと同じようにスポーツが楽しめることがわかった。」など、この講座をきっかけに、障がい者スポーツの普及促進のみならず、子どもたちの、障がいそのものへの理解が深まったと、学校から大きく評価をいただいております。

○また、昨年までは、市が主催してきた講座ですが、今回からは、認定 NPO 法人である「新発田市総合型地域スポーツクラブ「とらい夢」」がメインとなって事業を展開します。健康長寿のまち新発田として、行政だけではなく、地域ぐるみでスポーツ振興、パラスポーツ振興の推進を図りたいと考えています。

次に、令和 3 年度敬老祝品についてです。

○長年社会の発展に寄与してきた高齢者の皆様に対し、地域で長寿を祝うとともに、市民の老人福祉に対する理解と関心を高めることなどを目的として、自治会や町内会、新発田市社会福祉協議会と市が共催で敬老会を実施してきましたが、コロナ禍の影響により、昨年度に引き続き、今年度も中止といたしました。

○高齢者の皆様への感謝の思いとして、敬老祝品だけは、昨年度もお届けいたしました。今回は、この祝品の見直しを行いました。

○これまでは、贈り物の定番でもあるタオルをお届けしておりましたが、「健康長寿のまち しばた」をオール新発田で実現させていく取組の一環として、このたびは、高齢者の皆様に、ますます元気で長生きしていただけるよう、口腔ケアグッズ「舌^{ぜつ}ブラシ」をお贈りいたします。

○歯ブラシに比べあまり普及していない舌^{ぜつ}ブラシですが、口腔内を清潔にすることは、口臭の予防だけでなく、肺炎予防など全身の健康を守ることに

つながると言われており、折しも、市においては、今年4月に「歯と口腔の健康づくり推進条例」が施行されましたが、口腔ケアは、健康長寿のために非常に重要であると考えております。

○75歳以上の市民の皆様には口腔ケアグッズをお贈りし、長寿を敬うとともに口腔ケアのきっかけづくりに進めるといった取組は県内では他にはないと聞いております。

○敬老の日頃までに自治会や町内会の皆様方にご協力いただき対象者のご自宅へお届けいたしますので、是非お使いいただき、「健康長寿のまちしばた」の一員として、いつまでも元気にお過ごしいただきたいと願っております。

最後に、自殺対策推進月間の取組についてです。

○新発田市では「新発田市民のきずなを深め『いのち』を守る条例」を制定し、自殺予防のための啓発や相談事業を市民、民間団体、行政が一体となって進めてまいりました。

○令和2年の自殺者数は全国で21,081人、対前年比で約4.5%の増となりました。新発田市も令和元年度までは減少傾向でしたが、コロナ禍の影響による社会的、経済的な背景などが引き金となり、増加に転じたようであります。新発田市の令和2年の自殺者数は26人となり、対前年比で10人増えております。

○新発田市では令和2年の自殺者数の推移を踏まえ、市職員が窓口をはじめ市民と接する時に、悩んでいる方がみえられた場合、すぐに気がつき、必要な相談につなげられるよう全市職員を対象として、ゲートキーパー研修を既に実施し、正職員だけでなく会計年度任用職員も含め、1,316人が受講しています。感染拡大傾向のある中で、いち早く、悩んでいる市民に寄り添っていけるようにし、大切な市民の皆様を守りたいと思っております。

○9月は自殺対策推進月間でもありますので、新発田市職員全員が啓発用の缶

バッチを着用するとともに、これまで、市の公用車にマグネットシートを装着していた啓発活動を、商工会議所や民間事業者の協力を得て、それぞれの車両にもマグネットシートを装着していただくこととなりました。

○市民、民間団体の皆様と力をあわせ**ONE TEAM** オールしばた体制で、市民の皆様の大切ないのちを見守ってまいります。

本日お知らせする情報は以上になりますが、他にもお配りした資料のとおりイベントなどを予定しております。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市をご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。